

■戸田忠至 宇都宮藩家老。攘夷で幕府に抵抗し危機、藩主の意受け幕府許可得て畿内山陵修補し、名誉回復直後<明治維新>。

とただだゆき

浮世風呂・・1809＝ 宇都宮で宇都宮藩主戸田忠翰弟忠舜の第二子に生まれる。

水野忠成老中1818＝ 9歳：

日本外史・・1827＝18歳：

・・・・・1836＝27歳：

大塩平八郎乱1837＝28歳：

天保改革弾圧1842＝33歳：_家老間瀬家一千石を継ぐ。

阿部正弘首座1845＝36歳：

ペリー来航・1853＝44歳：_ペリー来航に触発された兵制改革や兵器の充実や、

開国開港・・1854＝45歳：

安政大地震・1855＝46歳：_豪商川村伝左衛門・菊池教中らに命じた新田開発策など、注目すべきものがあり、
松下村塾・・1856＝47歳：_17で死去した藩主忠明のあとを継いだ忠恕が幼少であったため、藩政に敏腕をふるう。

当時の藩論はかなり強硬な攘夷論で、

桜田門外変・1860＝51歳：

遣欧使節・・1861＝52歳：_江戸高輪東禅寺の<イギリス公使館襲撃事件>後、幕府から宇都宮藩に麻布善福寺のアメリカ公使館の警衛を命じられたが、国元の家老戸田忠厚とともに江戸家老として、その命を返上し、江戸城二ノ丸火の番に替えられ、注目をあびたが、

生麦事件・・1862＝53歳：_*<坂下門外の変>で、大橋訥庵や菊池教中ら藩内から逮捕者を出して藩の立場が不利になると、名誉回復のため、家老梶信綱を支えて、荒廃している畿内の歴代天皇陵の調査と修復事業を、藩として行う計画を立て、藩主忠恕が幕府に願い出、許可が下りると、いち早く藩士を率いて上京。その際、本姓の戸田に復帰し、大和守に任ぜられ、また朝廷から山陵奉行に任ぜられ、貴族諸家からも協力が得られることになる。以後、主として藩内の豪商や富農の献金によって、大和・和泉・河内・山城・丹波など諸国の、神武天皇陵(大和国畷傍山東北陵)をはじめとする歴代天皇陵など120余基の調査と修補を行ない、

8月18日政変 1863＝54歳：

禁門の変・・1864＝55歳：_<水戸天狗党の乱>の波及の対応の責任を問われて、忠恕の謹慎、禄の召上げ、陸奥国棚倉転封が命ぜられた際、嘆願し、この山陵修補実行の功績から、それら処分は取消され、

薩長同盟・・1866＝57歳：_*宇都宮藩より本高七千石・新田高七千石を分知され、下野国高德に陣屋を構え、大名に列せられた。

大政奉還・・1867＝58歳：_若年寄となるが、*新政府の参与(会計事務掛)に任じ、

明治維新・・1868＝59歳：_維新後、_権弁事・内弁事・宮内大丞・諸陵頭などを歴任するなか、

戊辰戦争終・1869＝60歳：_藩主は致仕、嗣子忠綱が継ぎ、

初の日刊新聞1870＝61歳：_高德陣屋は下総国曾我野(千葉市)へ移されて廃藩を迎え、

学問のすすめ1872＝63歳：_退隠し、

明治6年政変 1873＝64歳：

明治14年政変1881＝72歳：

岩倉具視没・1883＝74歳：_没した。